

## ■私の意見

# 日本の伝統とこころ 灘の酒に輝きを

西村 隆治

(兵庫県酒造組合連合会会長)



### ● 日本酒で乾杯を！

日本酒が大事にされているかというところ、その消費量からみても、全般的にはそうとは言えないと思います。むしろ日本の伝統文化全体が良い形で継承されていないように思います。それは明治以降、とくに敗戦後は舶来文化へのあこがれが強くなり、日本独自のものへの評価が低くなったからでしょう。

皇室や政府、公的機関がシャンパンやビールで乾杯していることは疑問です。兵庫県や神戸市では乾杯は日本酒で行なっていたいただいており有難いことです。全国各地域、政府レベルでもお願いしたいと思います。国際化の中で日本人のアイデンティティが問われる時代ですから、公的機関はもちろん、一般的にも「日本酒で乾杯」がもっと普及してほしいと思います。

### ● 料理店での日本酒は割高？

現在、一般の若者と日本酒の初めての出会いには新入生（社員）歓迎会などの料理店での席が多くなっています。お店での日本酒の値段は、他のお酒と比べて割高に決められています。昔はお燗で飲むことが多く、お燗料が付加されていました。その伝統がそのまま引き継がれているようです。リーズナブルな価格で日本酒を提供してもらえれば、若い人にもファンが広がっていくと思います。

余談ですが、未成年者飲酒禁止法を若年者飲酒禁止法に変更して、二〇才からではなく十八才からお酒を飲めるようにするべきだと思います。外国では十三才から飲める国もありますし、学生や社会人になる十八才という年齢がリーズナブルだと思っています。

### ● 灘の酒にもっと輝きを！

灘の酒は日本酒の消費量の三割を超えるシェアをもっています。しかしそのイメージは昔ほど高くはありません。新しい時代を迎えつつある今、各蔵元がそれぞれの個性にふさわしい品質を考え、その方向での技術研鑽に努力する必要があるでしょう。灘の酒の輝きを増してほしいと思います。

■  
ポエム・ド・コウベ

# 季節めぐり

詩・松尾繁晴

画・石阪春生



無言歌

手触りの粗い石柱にもたれ  
遠い点鐘を聴いている  
冬の季

消えてゆく  
かすかな音楽  
翳ってゆく  
はるかな日時計

いつまでも  
こだまする糾問  
どこまでも  
ひろがる疼み

眩暈の激しい斜塔にむかい  
黙って立ちつくす  
冬の季

# さようなら小泉康夫兄



## 弔 辞

石阪 春生 △画家▽

小泉康夫さん、あなたは忽然と私たちの前から去って行かれましたね。貴兄は私と同じ年令、そして同じ頃関西学院大学に学び、卒業しました。考えて見れば五十年近い長いおつきあいでありました。

貴兄は関西学院で学んだ、マスター・フオーサービスの奉仕の精神を心の糧として一生を歩み続けられたと思います。

青年期、貴兄は月刊神戸っ子をつくられ、兄妹でこつこつと日本の成長期と共にすばらしいタウン誌に育て上げられたわけです。

日常どちらかと云えば寡黙なお人がらでしたが、月刊神戸っ子を通じて、神戸の街のことなどいろいろな思いを、好きなお酒をのみながらとつとつと熱っぽく語り、夜の三宮を愛し、さまざまっておられた姿が、ついこの間のように目にうかんできます。たしかに月刊神戸っ子は神戸に住む人々の、経済人文化人をとわず

誌上で掘り越し、それらの人々が一堂に会する機会をつくられることよって街の輪がひろがり、人々の交流が生まれ育っていくと云う役目をはたされたと思います。

壮年期、貴兄の思いは京阪神に広がり、月刊誌オール関西をつくられ、そちらの方にもずい分情熱をそそがれたことは、多くの人々が知ることでした。

いみじくも、今年の一月、月刊神戸っ子が五〇〇号を出版するという、正に記念すべき月に、その達成感をあじわいながら、小泉康夫さん、貴兄はあちらへ旅立たれたのかもしれないね。

おつかれでした。安らかにおねむり下さい。合掌



お別れのとき（1月12日告別式にて）。

右より恵美子、華子、由紀子、一正、貞子、美喜子

# 弔辞

中西 勝 〈画家〉

小泉君、キミと出会ってもう四十五年以上になるなあ。毎日のように蛸の壺でのみ、食い、楽しかった。

ある日、君がサントリーの『洋酒天国』に負けないうハイカラな元町の本を作りたい、と蛸の壺で言った。

僕は即座に「やれ！やれ！神戸の文化発展のためにもやってくれ。画家も作家も同人誌のつもりで無料で

原稿を書いて応援してもらえ。三号も続いたらたいしたものだ」とけしかけ、君は妹のミコちゃんと、元町

を一年、そして全神戸をカバリーする「神戸っ子」を今日までたんせいして来た。三号続けば、が五〇〇号続

き、そればかりかオール関西という大阪京都を含むブ

ロック誌を、休んだ間を含め三十年も続けた。神戸のイメージを作った功績は大したものだ。市民

はもちろんもっと神戸市や兵庫県は感謝しなければならぬと僕は思う。

僕にマージャンを覚えてくれたのも小泉さん。ある日、蛸の壺のおっちゃんさんがそーと店をぬけ出すので

「どこに行くのですか」とたずねたら中西さんも行くかとつれて行ってくれたのが小泉さんの家。自宅でマー

ジャンをしていて、僕は生まれて初めてパイをにぎり、「二等」になった。以来、僕はマージャンの天才か、

と夢中になった。

遊んでばかりいたわけではないが、二紀会で

海外の展覧会を、中国、シンガポール、韓

国でやった時に、きみは参加してくれ、神戸っ

子賞も提供してくれた。「初心忘るべからず」

が君の座右の銘らしい

大好きだった今は亡き  
佐治敏三サントリー社長と



が、三号もつづけば…とスタートした神戸っ子が五〇〇号、復刊したオール関西も二十年。マージャンでいえばリーチ、大三元であるようなもの。

その時に、君に「さようなら」をいうことになった。経済的には苦しい事も多かったと思うが、おおむね楽しい人生であったのではないか。僕は君とすごした時間は楽しく愉快でした。「さようなら」ありがとう。

## いのち燃やした幸せ

長男・一正／次男・正巳／三男・康夫／長女・美喜子  
父は鹿三、母は加与。亡き父母を追って、一月十日午後二時二十二分、肺ガンのため神鋼病院で息をひきとりました。四人兄妹の中で、七十三才の康夫兄が先立つとは…。

大倉山の神戸仏教会館での、十一日の通夜、十二日の葬儀に四百数十人の方々が、全国からおいでいただきましたことを、心より深く深く御礼申し上げます。

岡山の西大寺金田で生まれ、父母と神戸須磨に。若宮小学校から岡山の開成小学校を卒業。神戸の滝川中学三年で空襲に遭い、またも岡山へ。百姓仕事の中、宝琳寺向井雅章住職と出会い謡曲を習い、帰神後、夜間高校から関西学院大学文学部史学科へ。関学の謡曲部、関西能楽連盟委員長の頃、能「土蜘蛛」をサンケイで舞い、初心忘るべからずと世阿弥に心酔しました。

月刊元町創刊、神戸っ子、オール関西、そして全国タウン誌協会を育みましたが、関西文化の旗手として、また日本の地域文化の創造にオピニオンリーダーの役をしっかりと果たして参りました。妻の恵美子さん、娘の華子・由紀子に恵まれ、孫三人に囲まれ幸せな生涯だったと思います。

「燃えつきて煙のぼりぬ天空へ」

小泉 美喜子 合掌

〈月刊神戸っ子主宰〉

●インタビュー 玉岡かおる 〈作家〉

3年を費やし渾身の書き下し!

## 『天涯の船(上下)』を語る

2003年2月27日発売予定



間違いなく玉岡さんの代表作  
新潮社今年の一押し

—このタイトルにはどういう意味合いが込められているのですか。

玉岡 『天涯の船』というタイトルは、中国の詠み人知らずの古い漢詩からきています。ヒロインのミサオが留学に向かう姫路藩家のおひさまの身替りにされるときに、教養がないとばれるからと、宿題に渡された詩なのです。そして物語全般を通じて、この詩が根底に横たわっているのです。

—玉岡さんこの詩との出逢いは古いのですか。

玉岡 実はこの詩との出逢いは、私の娘の受験テキストなのです(笑)。何気なく読んだのがとても印象に残っていたのです。でもタイトルは最後まで決まりませんでしたね。自分ではもう決められなくて、新潮社で会議を開いてもらってみんなで決めたのです。読む人によって「女性のための小説だ」とか「男のロマンを描いた小説だ」などと、かなり捉え方も違ったみたいですね。

—かなりの長編ですが、書き下ろし小説ですか。

玉岡 完全な書き下ろしです。各巻350ページですから、書いている方としてはそれほど長い気がしないのですが、原稿段階では読むのが大変だと皆さんに言われましたね(笑)。でも「間違いなく玉岡さんの代表作ですね」と言われる作品です。難産でしたが、時間をかけて書き上げたかと思っっています。

—時代設定は具体的にはどの時代になるのでしょうか。

玉岡 明治19年から第一次世界大戦を経て、第二次世界

大戦突入までの話です。日本の近代国家成立と、若者が活躍した時代ですね。この時代は本当に時代のパワーを感じます。

—玉岡さんのこれまでの作品と比べても、かなり読み応えのある作品だと思います。

玉岡 見切り発進で書き進めた小説ですが、結果的にスケールの大きな作品になったと思います。骨のある力作だと、新潮社でも今年の一押しの一つとして扱ってくれていますね。行き先が決まらずに神戸港を出港した船が、世界中を回り、大きくなって帰ってきたような感じですね。

日本に文明を輸入した男と

海外に羽ばたいた女性の物語

—松方幸次郎に焦点を当てている辺りは、神戸の人間としては興味をそそられますよね。

玉岡 そうですね。しかしフィクションですから、幸次郎は絵のことはまったく知らなかったという前提のもとで描いています。絵のことは知らないが、日本の近代化には海外の一流の絵が大量に必要だと考え、数を集めることに尽力を注いだ人という解釈の方が私には自然だったのです。書いていて本当に面白かったですね。幸次郎は明治の近代化を担う人で、文明を輸入した人だと思えます。その時代、絵は贅沢品として関税が100%だったのです。だからせっかくな購入しても神戸に入って来られなかった絵もたくさんあるのですよ。

—松方幸次郎さんに興味を持ったきっかけは何だった



本書の体裁 四六判ハードカバー  
上下巻各350頁  
予価各1700円

#### 著者紹介

玉岡かおる (たまおか・かおる)  
1956年兵庫県生れ。87年『夢食い魚のブルー・グッドバイ』で神戸文学賞を受賞、作家デビュー。明治から昭和へ、女三代の家族のルーツを辿る長編小説『をんな紋』(角川書店)が97年に山本周五郎賞候補作となる。執筆活動の傍ら、テレビなどのコメンテーターとしても活躍中。現在、兵庫県加古川市在住。

のですか。

玉岡 いろいろな資料を調べましたが、時代の先端をいくハイカラな人物だったにも関わらず、松方幸次郎には浮いた話一つもなかったのです。一つもないというのは怪しいですよね(笑)。その辺りが、小説家としては想像力をかき立てられるのです。空白がある人ほど想像の余地があります。私はルポライターではなく小説家ですから。そこで「光次郎」というフィクションの人物を誕生させた。

——ヒロインのミサオも魅力的な女性ですね。

玉岡 ミサオはクーデンホーフ・光子さんがモデルになっています。明治の時代にも多くの女性が海外留学をして先進の文明を学んできているのですが、女性が自由に生きられる時代ではなかったのですよ。良妻賢母を良しとする時代でしたからね。設定は姫路の家老の娘です。兵庫県は本来姫路藩が県庁所在地になるはずだったので。この小説でやっと姫路にスポットを当てることができたような気がします。

書くのが楽しくて仕方がなかった  
前を向くことの大切さを知った

——この小説には国際社会で日本女性が活躍しはじめる  
原点がありますね。

玉岡 『天涯の船』の「船」にはふたつの意味合いが込

められています。まず光次郎が造船会社の社長であったこと。そしてヒロインのミサオがアンティークの船のジュエリーを持っていたことです。これを現代の女性がニューヨークのアンティークショップで発見するところから物語は始まるのですが、何に使うアクセサリかわからないのです。実は帯留めだったというところから、海外で活躍した明治の日本女性の話へとつながっていきます。教育を受けたトップレディを養成するために、神戸港からたくさん女性が海外に羽ばたいています。開港当時の神戸のパワーはすごかったようですね。

——最後にこれからこの小説を手にする読者に向けて一言お願いします。

神戸はパワーのあるまちです。徳川時代のしがらみがなかったので、明治の開港で一気に花開きました。その時代の神戸のまちで活躍したのが幸次郎です。幸次郎は経営者としては、結果的に失敗しました。しかし彼が追い求めた夢は、現代人に通じるものだと思います。技術輸入ばかりに目を奪われていた時代に、アートの輸入に目を向け、人間の豊かさを追い求めたのです。この小説を書き上げるのに3年の歳月を要しましたが、この3年間は本当に家に帰って書き進めるのが楽しみで仕方ありませんでした。そして書きながら「前を向け！」という声を聞いたような気がします。

★鼎談・中西勝／佐川満男／大西浩仁

ちゃらんぼらん

〈画家〉

〈タレント・画家〉

〈漫才・画家〉

師弟が語る〈絵のこと 唄のこと 漫才のこと〉  
人生は旅や。ぼくらは旅人

中西 勝画伯の、絵の教え子たち、佐川満男とちゃらんぼらん大西と共に語る絵と人生模様。

〈於・中西画伯宅と木馬〉

★三人の縁は神戸の塩屋だった。

大西 神戸っ子は四十二年前から…。月に一回で五百号！  
凄いな。神戸二紀会が四十七年で五年早いんやね。どっ  
ちもしぶといね。

中西 小泉兄妹が、元町通の本を創りたいと言った時に、  
私も同人になってタダで絵を描くよーって、『蛸の壺』  
で言うたんです。

同人誌というのは金出して同人が好きな本出す訳やから、  
それで行ったらどうやって。

僕は創刊号から描いているよ。神戸の文化を良くする  
ためには大事なんや。美術館でもギャラリーが必要やい  
うて、『原田の森ギャラリー』が出来たでしょ。

大西 先生の発想は、神戸を何とか良くしたいという神  
戸への愛から生まれてます。先生大阪生まれやけどな。

中西 ぼくは二十五才から西代中学で絵を教えたんや。  
図画の先生や。

佐川 ぼくも十六才か十七才で描いた裸婦。新開地でリ  
リックという喫茶店で、中西先生について十六才か十七  
才で裸婦を描いていた。ヌードを見るのも初めて、描くの  
も初めて、その帰り新開地で童貞失うた(笑)。



中西勝画伯

佐川満男さん





ちやらんぼらん 大西浩仁さん

だから恩人ですわ中西先生は。最初、兄貴が建築設計士で、建物のパースを描く、数字の計算をせなあかんのでキライ。灘本唯人先生のところへも一週間ぐらい。石阪春生さんが親戚で紹介されて行ったけど燃えない、性にあわないのね。

子供時代の絵の先生だった中西先生にすすめられて二紀展に出して最年少で入選した。それから絵を描いて中西先生のところで唄え！といわれてギターで唄って、それが高じて歌手になった(笑)。

中西先生はあの頃かっこよかったよ。カークダグラスみたいやった。映画少年やったからね。背が高くてやせていて、ヒゲでね。カークダグラスがゴッホの映画をやったから。だから中西画伯の風体には憧れましたね。

大西 ぼくは大阪でもなく神戸でもなく尼崎です。ちゅうとはんばやな(笑)。ちやうと真中。芸人は尼が多い。大阪は落語家は出て芸人は少ない。出てんのはチョットはずれなんです。

エンタツさん、ダイマルさん、新喜劇の岡八郎さん、桂米朝さん、ダウンタウン、それにちやらんぼらん。新喜劇のチャーリー浜さん、パチパチパンチは武庫之荘、ほとんど尼です。

新喜劇のセツは尼ですわ。神戸みたいにハイカラでもない。大阪のように商売人のかけ引きが出来ない。尼がいちばん庶民的で、九州とか沖縄の人が多い。それに四国とか広島とか。それが阪神工業地帯に集ってる。その中から商売のかけ引きを憶えなアカンのですよ。尼が一番芸人が多い。ぼくは風呂屋で育ったから、塚口から大阪へ行くとき梅田なんか世界が違う。

ぼくは高校二年のとき美大へ行きたくて、中之島の総合美術教室へ通ってた。そしたらネオン街(笑)。寿司屋街。太融寺のところを通過して、ピンクサロンもあるし、そこを通らんと美術教室へ行かれへん(笑)。

うちの親父は広島から出て来て、神戸の須磨の須磨寺

中西 ほうー。ええ話ややね(笑)。

佐川 裸婦を見てね。コーフンして帰りに、兵庫駅へ行く途にね。もう福原の赤線は廃止やった。その時に、お兄ちゃん500円500円！(笑)。なにが500円か判らへん(笑)。よしっと思ってる。お袋の財布からくすねて、いっぺん行ったろと勇氣を出して行った(笑)。それで童貞失つて(笑)。

中西 関西二紀展初入選は最年少や。

佐川 そう、リリックの前、学校を辞めてブラブラして自分の生きる距離が長く見えすぎて。今は距離が見えてる(笑)。だから急ぐ(笑)。

そのブラブラの頃、塩屋の国道二号線で中西画伯と出会って、学校辞めたんか。二紀展締切一週間後やから描け！何描いたらええねん。お前の家の中にあるもん描いたらええ。壊れたバケツや、ギターなんかをわぁーっと描いた。「廃品」というタイトル。何であんなタイトルつけたのか。産業廃棄物ですわね。今思うに学校を辞めた劣等感もあるし、勉強が出来んし自分が「廃品」と思っていたのかな。

中西 そこでばくと出会うのも不思議やな。

佐川 先生と会わなかったら絵も唄もない人生やろね。

の近所で風呂屋を始めた。須磨から尼までの風呂屋で広島出身は全部うちの親戚や。江田島の倉橋島いうところから全部出てきた。船を売って風呂屋始めた。

それで銭湯に絵がありますやん。定番の富士山見て育ったんや。ぼく美大は京都行ったでしょ。京都は日本画なんよ。守る文化でしょ。尼は芸人のまち。西宮は野球のまちや。三宮、東灘、六甲、須磨ゆうたらロサンゼルス、西海岸やな(笑)。こっちへ住みたい海見たい。

神戸は絵とジャズや。美大の四年の時センター街で、学生漫才のアルバイトして、くし屋いうところで疲れたから横になったら、化粧品の匂いがして美容部員がおしほりをくれた。その娘に惚れて(笑)。ラブレター書いて、中野嘉恵いう双子(笑)彼女はJ.R塩屋に住んでて、坂道を上るとアパートがあつてそこへ入り浸りになった(笑)。

京都精華美術学部の四年の時に漫才ブームが来て、芸人をめざしつつ、塩屋から京都へ通つてた。

金田先生という二紀会の画家がいてね。その塩屋に、中西先生も、佐川さんも住んでたんで、ぼくとは縁があるんです。

中西 うちはジェームス山へ上って行く角やった。佐川君とかが塩屋浜やから、うちに黄色い旗が上つたらやってくるねん(笑)。幼稚園の頃からや。

大西 佐川さんとぼくの接点は、佐川さんも二紀展に入選して絵描きになろうという時に、ロカヒリー・ブームが来た。ぼくも絵描きになりそこねて大学に入ってる間に、漫才ブームが来たんですよ(笑)。ほんちさん、B&B、紳助竜介ね。それが来たため寄道して、寄道が本業になってしまった(笑)。先生はもともといつから絵描きになりましたか。

中西 四條畷中学校の頃からや。九州男児の武士の末裔で宮原七二先生、東京芸大での同級生が和田三造という図画の先生や。ぼくが剣道部へ入つてた。その先生も段

を持ってる。学校でクラブを選ぶとき美術部に入った。十七才で中之島洋画研究所へ行って美大へ行くのにヌードを描いてたね。

大西 その頃、美術部なんか道楽息子でしょ。

中西 母親は最初喜んでいて、医者にそんな穀潰しでっせ言われたら反対しよって…。

大西 うちも美大いうたら母親が泣くねん(笑)。それだけは止めてくれいうたけど、好きなことからやらしてもらいましたけど…。

中西 武蔵野美大に入ったとたんに戦争や。それから兵隊に三年行って帰つて来た。二十才で行つて二十三才。

一メートル七十二センチの身長で四十一キロ、ガリガリや(笑)。栄養失調で髪も伸びん。兄も弟も就職して、二人からのお金ですよ言うて母からもろて(笑)。元氣になつて武蔵美の同級生やつた本高砂屋の娘から手紙が来て、神戸の西代中で絵の先生を探してるって。兄弟にお金もろてる頃やから、行こうと決心した。それからの神戸ですね。

大西 ぼくが京都の精華大学へ行つたんは、ちょうど母親が心臓弁膜症で手術して、親戚中の血液集めて豚の弁をいれた。高三やからせつたい浪人出来へん。美大あきらめて精華大学見に行つたら鞍馬の山の中。何と環境のええところやと思つて決めた。美術科やつたけど、ヌード描いても、風呂屋の番台育ちやから裸なんともないネン(笑)。フランス人の女の子がヌードになったら他の学生は、鼻血ドバーツヤ(笑)。

由利明いう油絵の先生が、お前ら緊張せんでええ。向こうが裸やつたらお前らも裸になつて描け(笑)。それもそやなあ(笑)。女の子は出て行って…(笑)。

中西 ぼくはジャン市を描いて入賞した。

大西 ぼくもその頃は精力はある、好奇心、恋はしたい。パチンコも酒もと(笑)。外へのエネルギーがありあまつて、黙つて描けといわれてもシンキくさい。植物園へ行つ



「先生と会ってなかったら絵も歌もやってない」と佐川さんと中西画伯（木馬にて）

て、猛烈に絵を描いて、女の子連れてHして、岡本の子  
 でしたけど初恋。海星女子高校へ行ってた初めてつきあっ  
 て。次が塩屋（笑）。十八才から学生漫才やって、ラジ  
 関からテレビに出て、東京往復して、とんねるずもコロッ  
 ケも学生でした。

相方は高校の同級生の富好真。彼が大経大で野球部。  
 ぼくが油絵描いて風呂屋の番台にいるのを誘いに来て、  
 テレビへ出るために東京へ。十八才で全国デビュー。いっ  
 ぱんに有名になって女の子がキャーキャー。関西の女子  
 大から申込みが来る。それでずーっと漫才でした。ぼ  
 くは教職員コースをとって絵の先生になるはずが「お笑  
 いスター誕生夏休み篇」で学生漫才レギュラーで上京す

ることになって絵をあきらめた。

## ★戦災と震災と 立ち上るエネルギーは似てる

佐川 絵もね、歌い始めてからピチャッと止めた。それ  
 は人に受けることを始めたからなんです。人に受けるこ  
 とを考えて描いてもオモロナイ。今でもテレビで見えてい  
 る人のために絵を描く描かされる。例えばディレクター  
 好みのものを書いてしまったり。だから絵は楽しむとこ  
 ろまで行っていない（笑）。人に受けようということを考  
 えないライブは楽しい。チキンジョージは楽しかった。

しゃべりもなーんにも考えずに出たとこ勝負。それが  
 ええんやね。だから歌はええ線ですね。絵も芝居もまだ  
 苦しい。どれも同じなのよ。欲を捨てて無心になること  
 だけ。

芝居もここがええ泣かせどころのセリフやと思っ  
 てやると滑っている。絵もええように描こうと思うとアカン。  
 今、絵が一番難しいね。深いからね。

大西 一九七六年のあの人物画もええなあ。

佐川 鉄道員とか酔っぱらいとか。ちょうど伊東ゆかり  
 と別れて、何をするともない。写真を見ながら毎日一  
 点づつ仕上げて人に譲ったから、四・五点残ってるん  
 ですよ。仕事もなかったしね。毎日描いて、ヨメはんも子  
 供も出て行った後やから、痛うて痛うて……。痛い時に絵  
 が描けたということですね。

大西 鬼気迫るものがあるわね。あれから描かないのが  
 惜しい。新地時代やね。ぼくも学生漫才が当って、一年  
 留年して、おかあちゃんを事務員にして事務所開いて、  
 ダウンタウン、トミーズ、ハイヒールは同期で、当時吉  
 本は給料安い。ぼくら大学時代四十万ぐらいあったのよ。  
 吉本は三万か四万で一ヵ月。それを聞いてアホらし。い。  
 事務所が当って、どこにも所属せずに漫才の新人賞皆

獲ったのよ。風呂屋で寄席した。これも当って皆取材に  
来る。独立プロ、大卒で風呂屋で寄席やってる(笑)。

珍しいから、ABCもOBCも新人賞総なめ(笑)。経  
済大学と美術大学出身で漫才してる。それから百万入る、  
ニッスイのコマーシャル。菅原文太、大竹しのぶ、ちゃ  
らんぼらん(笑)。何千万の世界や。二十四才の時六本  
コマーシャル。女子大でもてるワ凄い!二十五・六才  
の頃、親父がそれだけ稼いで家賃なんでいれへん(笑)。  
相手の富好真と相談して東京の新宿に事務所を持って、  
神戸の和田岬にいた女の子と、東京から帰って来て結婚  
して、東京の名人劇場へ出て。東京で二十八才迄もの凄  
い良かった。昭和六十一年独演会しようというて、新宿の  
コメディシアター借りて、TV局も皆呼んで三月二十四  
日。何百万かけてやった。新幹線乗って旗挙げや。もし  
たら雪が降って来て大雪。山の手線から全部止まった。  
六時に始まる予定が四時にストップ。誰も来ない。中尾  
ミエ、水野晴朗も来られへん。お客も来られへん。四百  
人の会場に二十五人。よう来たなというたら、こししか  
ないから避難しに来た(笑)。

これから転がるように転落。奈落の底。何してもアカ  
ン。フリーで限界、大阪へもどる。吉本は東京でタウン  
タウンで大受けですわ。

昭和六十二年、風呂寄席から始めよ。その時なんぼグ  
ランド花月オープン。吉本の林正之介会長は六十億無借  
金。見に行った。よう六十億で建てたなあ。林会長に会  
いに行った。

「貴様!漫才しとるな。ワシが漫才創ったんや。お前  
ら陰で商売するな!うちに来い!条件いな!ハンコ押  
せ!」(笑)「昔やったら叩きつぶしてる。お前は得や、  
時代がええんや。」

テレビの仕事も全部吉本の力でつぶされて、何にもな  
しや。吉本に反旗をひる返してまですることない。悩ん  
だ挙げく吉本へ飛び込む。

昭和六十三年。こんな安い出演料で半年でヨメはんも  
逃げてしてもて、また芸人が多いので表に出られない、表  
街道から裏街道。十年間苦勞しました。それで絵を描き  
始めたんです。吉本行くまで描いてない。つらい目にあつ  
て初めて描いた。

平成五年が阪神淡路大震災。風呂屋はなくなる、テレ  
ビはなくなる。劇場出演のみで暗い。ゼロやね。三枝さ  
んの仕事で生田神社で、神様に手を合わすと上手いこと  
行く。その後、長田へ行って、焼跡にひまわりが咲いて  
いて、ひまわりを描いて、イカリスーパー二階で第四十  
回神戸二紀展公募のポスターが張ってあって、"がんば  
ろう神戸"というテーマのひまわりの絵の写真を送った。  
そこで中西先生との出会いがあったんです。

中西 そうか…。震災後、阪急ミュージアムでやること  
になって写真審査をしたんや。

大西 長田のひまわりは二紀の谷口先生が蒔いて育てた  
そうですよ。震災がなかったら中西先生とも逢ってない  
わ。一月十七日がぼくの誕生日!

中西 絵に何で犬がおるねん?

大西 平成元年一月一日成田さんで拾うて来て、死にか  
けてたのを育てて震災の時に大活躍。塚口温泉が半壊し  
て、風呂屋を建て直しておとうちゃんが一人で何も出来  
んときた。犬が番台の上でくれて店番する(笑)。ウー  
ワン!いうて(笑)。犬の名前「最澄」や。皆がエサく  
れて、ドッグフードも食べへんようになって(笑)。

ほくも、ひまわりの絵を描いてる時は、涙でましたわ。  
始めて人のために描いたと…。皆に勇気を出してもらお  
うと思つて明るい色つけて。

中西 そうかええ話や。ぼくが戦後間もなく、神戸のジャ  
ン市描いて、二紀に通つたのと似てる。西台中学の先生  
の服を高砂屋で汚い服に着替えてジャンジャン市場へ行  
く。センター街の山側の一角やね。パンパンガールが、  
お兄ちゃん遊ばか。あんた絵のモデルになつてよ。いう

たらいでおいでして、四・五人女の子が集って来て、この人絵描きさんやねん、あんだモデルになるか。モデルって電気つけて裸になるの恥かしいわ(笑)。そんなことあったなあ。震災と震災の後、エネルギーは似てるね。

### ★世界をこの眼で確かめる。

中西 ほくが旅に出たのは四十一才から四十三才までや。神戸出るときは大パーティを開いて、歓呼の声に送られて、アルゼンチナ丸という貨客船に乗って、ハワイへ行つて、ロスへ着いたらロールスロイスでぼくを迎えに来てくれた(笑)。行ったところがビバリーヒルズ！日系人のおじいちゃんが来てね。私の若い頃は車を改造してアメリカ中を走り廻ってた。ヘエーッ。それで、普通の乗用車の後ろのシートに古いベッドをはめ込んでつくり、そのおじいちゃんが細工仕事が出来た訳や。シボレーの中古車でつくってもらってウチのヨメさんが運転して、フリーウェイに入って、初めてキャンプ場へ入って寝る訳、これで寝るネンなあ(笑)。

パールハーバーに入港した潜水艦で寝とるような雰囲気や(笑)。行儀よく二人寝る(笑)。

佐川 ほんなら不動の姿勢やね。

中西 馴れて来たら犬小屋に入る犬みたいなものや。二人はコソコソッと入ってコソコソッと寝る。

グランドキャニオン、ラスベガスを廻った。ヨメさんとギャンブルもしたしな。

佐川 何で先生、外国へ行く気になったの。

中西 これは友人の絵描きが、我が家へ来て、テェコスロバキヤとかヨーロッパ中をヨメさんが運転して、ワシはガーンと寝て絵も描いて来たでと、えらい元気！

それを見てほくも外国へ行つて、外国人で一体どんな時に泣いたり、恥かしがったりするのかな。

ほくは終戦で兵隊から帰って来て四十一キロや、ヒゲもはえへん。栄養失調でね。例えば原爆が広島へ落ちて、その後に草が生えて来た。絵描きがヒゲをはやしてと言われたけど、ヒゲが生えて来た時、人間よみがえったように思ったのよ。はえて来るヒゲを絵描きとして自然に蓄えたんよ。

それで思うのに、人間としてほんものとか、そうでないものとか、流行とか流行でないものとか、世界を廻って見て来たいとね。外国人はどういう風に生きているのかを見たかったのよ。

単に絵の勉強だけでなく、同じ人間が、歴史とか風習があって、世界をこの眼で確かめたかったのよ。

佐川 先生が絵を描いてよかったのはどの国？

中西 国としては、アメリカ。黒人が多かった。ニューヨークで大声を出してる元気な人は黒人。主に黒人を描いたナ。メキシコでは純粋なサポテコ族などの人々を描いた。家を貸してもらって住んで、豚なんか放し飼いや。原始に近い生活に入つて、一番好きやったね。それからグアテマラ。次にニューヨークに一年いた。大西洋を五日かかって船でドイツに着いて、フォルクスワーゲン一六〇〇CCの新車を買って、キャンプ道具も一式準備して、デンマーク、スウェーデン、オーストリア、ユーゴスラビヤ、ブルガリア、トルコ。再びギリシャからイタリー。北上してフランス、スペイン、そして海を渡ってモロッコや。四十日いてモロッコからポルトガル。

ポルトガルのキャンプ場へ入って行ったらね、大阪万博ポルトガル館のチーフというのがいて、筆をサンフランシスコで買って来てるので、文字を書いてくれといわれ、よっしゃと書いて書いて、十五万円もろた(笑)。一ドル三七五円の頃や。

ポルトガルの有名な画廊で絵の展覧会してそれが売れたりね。テレビが来たりえらいこっちゃ。新聞では放浪画家の中西勝と書かれたり。面白かったよ。個展の絵が

またよく売れるねん。一五〇〇ドル（笑）。それで又旅ができる（笑）。

佐川 ええなあ。面白いなあ。

中西 ドイツ、スイス、オーストリア、ベルギー、イギリスまで行ったわ。最終的にアルプス。金使っても、自動車売ってしまおか（笑）。売ったら二束三文やから、日本へ送ろういうて、アントワープに三菱の船が入っている。行けっ！と言って雪の中を三日掛りで行ってパーッと。船の船員に神戸へ行きますかいうたら、そらちゃんと言きますよ。神戸へ送ってくれ、着いたら蛸の垂という店がある（笑）。マッチも俺の絵やし、息子の仲人もしてるから、行ったら全部飲んでくれタダや（笑）。OK!

佐川 ええかいな、ええ加減やなそれは…。

中西 着のみきのままで、東ベルリン、西ベルリン、汽車でシベリア鉄道をパッパッパッ！ナホトカからバイカル号に乗って帰って来た。

大西 三年とは長い旅やなあ。

中西 帰って来て、黒人の聖母子像で安井賞。日本一の賞。それが売れて売れてどうすることもキャンノット（笑）。よー売れたんや。その頃、常々カサバに住みこんで、モロッコを深く知りたいたいと思ったんで、六ヶ月の旅を考えて、その間に鴨子ヶ原の自宅を、佐川設計の建築家だった親友の佐川さんのお兄さんに建ててもらおうてね。

佐川 いやー、設計が行くたんびにコロコロ、コロコロ変わる（笑）。兄貴は苦勞したんや。

ぼくの旅は旗振山から、六十才の五月二十一日にスタート。赤丸ポストのある風景を追っかける旅。ところが赤丸ポストがないんですわ。田舎に行くところだけ…。

その時に「ちんぷいぶい」のテレビの話があって、旅に出て絵を描きたいというのが符号してね。この画集が出来たのよ。旗振山で考えたことは、毎日登っていて、

NHKドラマでスケジュールを押えられていて、ヒマでヒマで。朝九時頃、毎日登って母親が寝込んでいて、十九で亡くなって、百才で亡くなったことにしようって。ヨメはんが出て行ったのが又帰って来てくれて、母の面倒見てくれて、お袋が苦しまないでとか、願いを込めて、毎日山登りをしてた。山へ登って高い旗振山で旅に出て見ようと決心したんです。

それからいうもん、ぼくの後をちゃんぼらんの大西君が、後ばっかしなぞってはついてくるねん。（笑）。竹富島もね。テレビで行くんやからまあついて来たたら、そしたら完全にはまってしまつて（笑）。ここは神の島や（笑）。ウルサイウルサイ（笑）。小浜島もええで言うたら、またついてくる（笑）。旗振山もね、ぼくも行く言うて。ええとこですわね言うて、またはまりました（笑）。ぼくが画集を出したら、また大西君も画集を出す（笑）。二月の三日も竹富島へ行く。ぼくは水戸黄門があるから言うて断ったけれど。何か竹富島は日本であつて日本でない。海も風も空も違う。自然の中にいるとポケてしまいそうな気がする。あそこであの「海よ！空よ！風よ！」の曲が出来ました。もう一曲「夕日が沈む前に」は、大西君のいつもウナツてる歌を曲づけした共作ですわ。それで画集出します。タイトル見たら「夕日が笑ってる」（笑）。

大西 竹富島の夕日は凄いのよ。佐川さんは残念ながら見えないけどね。ぼくは見た。たまらんですわ。笑って来ますわ。それで夕日ただ笑うだけ（笑）。実は、ぼく今度二紀会辞めます。今は人の前でしゃべりながら即興で絵を描きたい！漫才と共に全国の銭湯や温泉百カ所に「富士山」を描く活動始めました。アートとトークでアートクライブですわ。

中西 好きな時に好きなように描いたらええ。二紀展も三回入選したしね。

佐川 ぼくも二紀会へ入ろうかどうか、迷つてね。



「大震災のとき長田でひまわりの絵を描いて二紀に通りました」と大西さん。中西夫妻と。

大西君三回も入選して、ぼく落ちたらどないしよう(笑)。菅原洗人先生が、二紀会へ入らなくても、自分の好きな絵を描くのが本当じゃないんですかって……。いや二紀です言うてたけれど、そうか楽しく描くのもええかなと思ふようになった。

この間東北へ行つて糞虫山人と言う人の取材をしたんや。豪農の家で生れて二号さんの子だったらしくて、十いくつで家を飛び出して、全国を自分で TENT 張って旅していたのでミノムシ山人いうてね。昔の縄文式の土器を集めて、独身で六十八歳で亡くなった。何十年も旅して「生きた」というのも凄いなあと。

中西 ぼくは「カタツムリ号」。新谷秀夫先生なんかは、日産自動車でアウトバーンをバットと走ったという。これはぼくにはアカンなど、「カタツムリ号」

地図にないところをゆっくりゆっくり入って、ほんとに人間とは何ゾヤということが判る訳や。

佐川 そのミノムシ山人が先生に似てる……。

中西 ルンペンとか、偉い人はぼくの顔に似てる(笑)。

須磨の海岸を母親と歩いたら、よう似たルンペンがようけおるねん(笑)。母親がしよげとったなあ。

佐川 まあ、旅の醍醐味は、芭蕉の奥の細道に「月日は百代の過客にして、行きこう年も又旅人なり」と言う言葉があるけれど、要するに人生そのものが旅だという。旅の途中に船を漕いで渡すその人も旅人だ。先生、今お

いくつ？

中西 今七十八才で、四月十一日が来たら七十九才。数えて八十才や。

佐川 若いなあ！俺も先生みたいにいけるかなあ。まあ先生の年まで俺もゆっくり旅をする。人生は旅や。三人とも旅人……。と言うところで終りましようか。先生？

中西 ちょっと待て、歌唄おうか。「十九の春」や。

「わたしがあなたに惚れたのはー♪」

佐川 わぁーあれは長い。ぼくが画集出す時に、先生に一言メッセージほしい言うてお宅へ行った。ヨメさんと帰ろうとしたらちょっと待てや。それが「十九の春」

(笑)。奥さんとやね、代り番こに唄うのよ。終わったかなと思つたらまた始まる。帰ろうかな思つたらまた続く(笑)。うちのヨメと二人で聞いたけど、長い長すぎるよ(笑)。

中西 そんなことない。生命がけで唄うてるんや(笑)。大西 中西先生とこは、奥さんと二人でいつも「十九の春」。若いわけや(笑)。

(文責/小泉美喜子)

二〇〇三年

# 神戸酒徒番附選考座談会



堅調なこの一年。踏ん張って次の手に期待。

## 西ノ経済人

### ■選考委員

木下 健さん (三富商店 代表取締役会長)

角田嘉宏さん (有古特許事務所 所長)

前田篤良さん (神戸新聞社 論説副委員長)

### 元気なファッション業界・食品業界

— 昨年はワールドカップなどの明るい話題がありました。昨年の経済界はどうだったでしょうか。

A 経済界は全体的に停滞ムードですがファッション業界がよさそうだね。

B 神戸ファッションが全国的に売れているようですね。食品もそんなに悪くない。

C 中でも、ロックフィールドが良いようだね。

B 食品業界ではロックフィールドの岩田弘三ががんばって業績を伸ばしているね。

C 横網の、ワールドの畑崎廣敏、張出横網の、伊藤ハムの伊藤研一は動かずだね。

A 和田興産の和田憲昌も同じで行こう。

C 瀧川博司もいろんなところで活躍しているね。財界ベースで活躍しているしね。

B 瀧川博司も定年前に神戸の商工会議所副会頭をしているので横網にしたいところだが、行事をしてもらっているので動かせない。

C 仕方ないね。我慢してもらおう。

B ノーリツの大田敏郎、商工会議所の副会頭は財界のためにがんばっているね。だけど定年にひっかかってしまっただな。

A シスメックスの家次垣もよく儲かっているじゃないか。商工会議所副会頭でもがんばっているし、1つ上げよう。

C 淡路屋の寺本混もがんばっているのだから上げようか。

B イズムの小田俱義もファッション業界のためにがんばっている。ファッション都市宣言30周年もあり、今後もがんばって神戸を盛り上げてもらうためにも張出小結にしよう。

C フェリスモの矢崎和彦は、震災復興のために貢献しているね。



—全国的な人気を保つ神戸ブランド

A 西村屋フーズCOMの西村理も今の状況でがんばっているね。

B 沢の鶴の西村隆治が兵庫県酒造組合連合会長になった。これからの期待をこめて上げよう。

C 小泉製麻の植村武男はどうだろう。

A 彼はこれから神戸のオピニオンリーダーになるひとだと思ふよ。彼の考えていることもすばら



前田篤良さん



角田嘉宏さん



木下 健さん

しいと思ふ。上げておこう。  
B ドンクの酒井敬輔もよくやっていたね。パンづくりで世界1になったようだね。

C パンといえば、フロインドリープのヘラ・フロインドリープ・上原を入れてみてはどうだろう。

B いいんじゃないか。

A 神戸のパンは全国ブランドだからね。

### J Cをはじめ若手に期待

—新しく登場する人は誰が上げられますか

A J C理事長に就任したキラン・S・セティがおもしろい。これからの期待を込めて十両に入れておこう。

B 新人では奥井電気 of 奥井秀樹。海のまつり実行委員会を成功させた北野天満神社の佐藤典久。

C 日本J C副会頭をした瀬戸口仁三郎を前頭にいられておこう。

B よくがんばったね。

A 前J C理事長の中山広隆を十両筆頭にしよう。彼は昨年のJ C理事長としてよくやっていたと思ふよ。

C ファミリアの岡崎晴彦も依然健闘している。

B マキシンの渡邊百合もがんば

っている。マキシンの帽子は全国区だからね。

C オリバーソースの道満雅彦もよくやっている。

A マックの植村孝一はセンター街をよくまとめているね。

B 本高砂屋も洋菓子で調子がいよいよだ。

C 南京町では老祥記の曹英生がいろいろと南京町の振興でがんばっているようだね。

A 有馬の金井啓修は有馬の街づくりに力をいれているね。

B 彼のおかげで有馬のまちの雰囲気が変わったね。

—最後に殊勲賞・敢闘賞・技能賞はどうしましょうか

C 今年の殊勲賞は岩田弘三でどうだろう。依然として勢いが衰えてないからね。

B 賛成だ。

A 敢闘賞は日本J Cで副会頭をつとめた瀬戸口仁三郎にしよう。大役をこなしたからね。

B 技能賞は有馬の街づくりでがんばっている金井啓修で決まりだな。

二〇〇三年

# 神戸酒徒番附選考座談会



引退続出！どんどん若手を入れよう！

## 東ノ文化人

■選考委員  
有井 基 さん (神戸史学会代表)  
岡田 弘 さん (元町画廊社長)  
武田則明 さん (建築家)

県立美術館、CAP HOUSE  
美術界から話題に

—2002年はワールドカップが開催されたりと、賑やかでしたね。夜の店はけっこう暇だったという現状もありましたが…。兵庫県立美術館「芸術の館」がオープンしたことが大きいですね。

A 美術界では、抽象の世界が広まってきたね。県立美術館も、抽象絵画のために建てたようなものだ。

B そうなると堀尾貞治の名前をあげたいね。

C 先日、北野のCAP HOUSEの展示会のオープニングに行ってきたけれど、植松奎二や榎忠も出ていた。

A CAP HOUSEはおもしろいね。大雑把な雰囲気があって、旧ブラジル移民センターを改造して

いて、落書きが残っていたりするんだ。

B 県立美術館よりおもしろいよ(笑)。杉山知子が良いことを言っていた。「ブラジル移民の人たちは、ひとつの夢を持って、希望をもって新天地を目指して行ったわけだから、そういう意味合いで、この場所で創作活動ができるということはずごく楽しい」って。

C 杉山知子を番付に入れるとしたら、当然十両よりも上の方に入ってくるね。

—県立美術館の関連では。

A 堀尾貞治は、芦屋市立美術館でやった個展もすばらしかった。今年、松谷武判が定年で引退だから、堀尾に前頭筆頭ぐらいに入ってもらいたい。

B 学芸員で、岸野裕人。彼はもとと画家を目指していて、頭でだけじゃなく実技をやってきた人だから、理想を持っている。

昨年に引き続き  
活躍する神戸っ子たちは？

—さて文化人は65歳が定年なので、今年引退する方がけっこうおられます。松谷武判、新谷琇紀、関西マンドリン協会の川口優和、書家の井茂圭洞が引退。それを踏

まえて、上位陣からいきましよう。

**A** 谷川浩司、大森一樹、内藤国雄は動かないね。

**B** 植松奎二はファミリーで頑張っている。

**A** 文筆関係が全然あかんね。玉岡かおると、浅黄斑くらい。

**C** 玉岡かおるは、また大作を発表したから順位を上げては。

**A** 伊藤ルミ、小曽根真も引き続きがんばっているね。

**B** 昨年体調を崩して休場していた榎忠は、今年復活。身体のことを思うと、飲むのは休場して

ほしい気はするが。

**C** アレックス楊は、引き続き新店をオープンさせるなど、活躍が続いている。

**A** 瀬戸本淳のマンションも、覚えていただけで2つは建った。彼の建物は色が良いと思う。圧迫感がないんだよね。

**B** スポーツでは、オリックスの谷佳知がついにヤワラちゃんと同約。オリックスにはがんばってほしいから名前を入れておこう。ヴィッセルのカズ(三浦知良)も踏ん張った。番付には平尾誠二の名前が入っているけれど、神戸製鋼にもがんばってほしいなあ。

### 各界から新人も多数

—新しく番付に登場する人では誰が挙げられますか。

**A** まちづくりでは、田中貢を挙げたい。香住町の古い民家を神戸で再建しようというグループ「まちコミュニケーション」の代表をしている。

**B** 神戸焼の南和恵は、陶芸教室の弟子も多く、育てるのが上手だ。

**C** 宝知院の住職で、中川正興も挙げたいね。先代の弘安から引き継いで、年末に芸術家が集って大忘年会をしていて、応援したいか

らね。

**A** そういえば、島田誠の名前が入っていないのはまずいんじゃないか。ロドニー賞も受賞したし。技能賞に入れてもいいのでは。

**B** 日本舞踊の藤間莉佳子もリサイタルなどでがんばっているよ。ただお酒はあまり飲まないけど。

**C** モダンダンスでも、ダンサーは基本的には飲まないね。

**A** 飲むことでは松本幸三なんか健在。声楽では、田淵幸三がクラシックライブハウスのピアジュリアンなどでずっと歌っていて、昨年芸歴30周年のリサイタルを盛大に開いた。

**B** それから高田屋嘉兵衛の「菜の花の沖」にちなんで東川崎町の道沿いに、菜の花を植えるユニークな活動をしている大塚映二というのもあるよ。

**C** 新開地のチャップリンの形をしたタワーをデザインした工藤和美の名前も挙げたい。

**A** 最初に名前が挙がった杉山知子は、CAP HOUSEが昨年NPO法人になったし、3周年企画などおもしろい活動を続けているので、早速殊勲賞に。

—文化人は定年が65歳だから、ほとんどん若手が入ってきてほしいですね。ありがとうございます。



有井 基さん



岡田 弘さん



武田 則明さん

# 徒 番 附



<p><b>平成十五年</b></p>	<p><b>西〈経済人〉</b></p>														<p>殊勲賞 <b>岩田 弘三</b></p>	<p>敢闘賞 <b>瀬戸口仁三郎</b></p>	<p>技能賞 <b>金井 啓修</b></p>
	<p>横網 張出横網 張出大関 大関 張出大関 張出大関 関脇 張出関脇 張出関脇 小結 張出小結 張出小結</p>														<p>勝負監査役</p>		
	<p>畑崎 伊藤 上島 和田 家次 寺本 乾 細川 岩田 川西 小田 木下</p>														<p>石坂 沢井 河野 市野 奥村 上島 嘉納 梶木</p>		
	<p>廣敏 研一 達司 憲昌 垣 湍 英文 数夫 弘三 章二 俱義 章夫</p>														<p>春生 修一 忠博 弘之 孝 康男 秀郎 雅夫</p>		
<p>前頭筆頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭 前頭</p>														<p>〈西方〉取組場所</p>			
<p>工藤 西村 西村 西河 小椋 藤尾 五代 植村 下村 矢崎 林 岡崎 井植 酒井 細谷 瀬戸口仁三郎</p>														<p>恭孝 理 隆治 紀男 昭夫 益也 友和 武男 俊子 和彦 宏子 晴彦 貞雄 敬補 俊雄</p>			
<p>十両筆頭 十両 十両 十両 十両 十両 十両 十両 十両 十両 十両 十両 十両 十両</p>														<p>足寄・飛鳥・善後と豊後・北野クラ・トムキャンテイ・小方・セントムジヤンテイ・オウゴン・ラウジン内田・リクミン・セリゼ・大しま・マイセン・ガリバー・神戸倶楽部・マシユケナダ・ルンビニ・フアイリスユハート・伽羅・ソネット・バイロス・ファジィ・ニュー・スライズ・レッドドラ・レックス・トニー・ニールトレイ・トニー・エム・ニールトレイ・BOYAN・シンクシング</p>			
<p>勸進元</p>														<p>番附審査</p>		<p>呼出し</p>	
<p>中山 広隆</p>														<p>木下 健</p>		<p>小泉美喜子</p>	
<p>月刊神戸っ子 編集室 平成十五年 一月十四日選定 (七〇歳定年)</p>														<p>前田 篤良</p>		<p>角田 嘉宏</p>	

